

営農技術情報

発行 令和2年5月1日
第5号

たいせつ農業協同組合
営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357
支所 営農センター 87-4111

本年は播種後の天候があまり安定せず、シルバー、ポリなどの被覆資材を使用する時期が長くなり、ムシ苗やカビなどの発生が心配されるため、下表 1、2 を参考に防除・対策をしましょう。

《表1》

病原菌の種類	病状と特徴、見分け方	耕種的な防除対策
赤カビ (フザリウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 籾を中心に白～淡紅色のカビ発生 ・ 地際部、根が枯死し、生育不良 ・ 萎凋、枯死し籾や根が紅色になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過湿状態を避ける ・ 夜間保温に努める(10℃以下で赤カビ、ムシ苗の発生が多くなる)
ムシ苗 (ピシウム菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急激に葉が巻き針状に萎凋、枯死 ・ 発生はスポット状、加齢は見られない ・ 地際部は水浸状褐変腐敗 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高温管理を避け徒長させない ・ 発根促進に努める ・ 軽度の白カビは、土壤の乾燥で蔓延を防止する。
白カビ (リゾープス菌)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 床土表土、籾層に白色のカビ発生 ・ 蔓延すると発芽、発育不良となり根は短く、根数も少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正播種量を守る ・ 来年に向けて土壤を適正な pH へ調整し、排水対策を講じる。

《表2》

病害名	防除時期	処理方法	薬剤名	希釈倍率	使用量	使用回数
苗立枯病 フザリウム菌 ピシウム菌	播種時又は 発芽後	土壤灌注	タチガレエースM液剤	500～ 1000倍	500 ml/箱	1

※タチガレエースM液剤は使用濃度、使用量が多いと一時生育抑制を起こします。

育苗後半からの育苗管理と水田管理

◆健苗の移植を行えるようにしましょう。

苗質は生育・収量・品質に影響するため、「育苗日数」「移植時の葉齢」をしっかりと守り、老化苗にはさせず、健苗の移植を目指しましょう。

降霜や強風の恐れがない限りは、夜間もハウスの

肩・裾を開放して外気温に馴染らし、苗の硬化に努めましょう。また、ゆめぴりかは育苗段階での分けつが取れにくい品種のため、2.5葉期・移植前に追肥を実施しましょう。

◆水田管理について

- ① 移植後の初期生育をよくするため、耕起作業は圃場が十分乾燥してから実施し碎土性を高めましょう。
- ② 畔塗機で畦畔補修を実施し、水田の漏水防止に努めましょう。
- ③ 施肥は土壤診断に基づいた適正量とし、多肥栽培は避けましょう。



◆農作業事故に十分注意しましょう！

トラクターの操作や水田に出て行う作業が本格化しておりますが、この時期から農作業事故が増加します。農作業事故ゼロに向け、計画的な作業と休息を間に取り、ゆとりを持って作業に当たるようにしましょう。